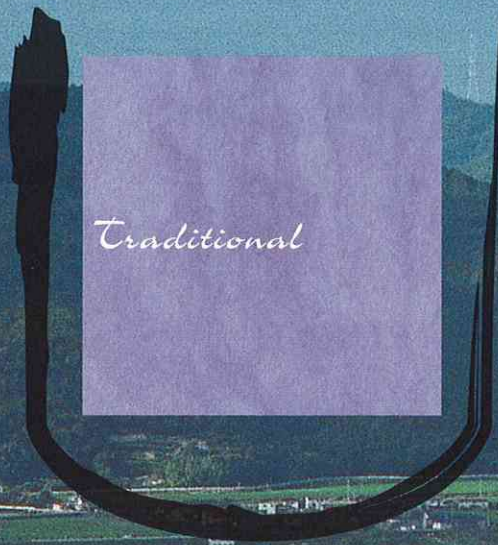
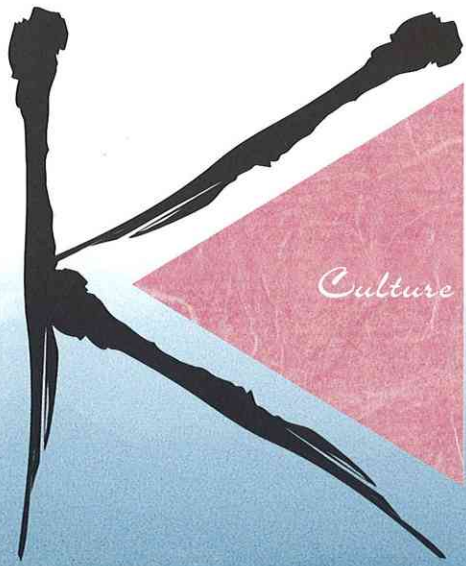


お
く
邑久をえがく



町制施行50周年記念
邑久町勢要覧

ひとの想いが まちをえがく

Contents

自然	安らぎをえがく	2
文化	こころをえがく	6
伝統	ロマンをえがく	10
まちの現在をえがく		14
みんなの鼓動がひとつになる		16
イラストマップ		18
まちづくり	漁業・農業	20
	商業・工業	21
	人権	22
	環境保全	23
	福祉	24
	教育	25
郷土偉人伝		26
邑久の軌跡をたどる		
	新たな歩みを支える五十年	28
議会・行政		32
町長あいさつ		33

Nature

安らぎをえがく

「丸」や「円」、また「輪」とも読める○には、「和」の意味も息づいています。まちとひとの調和、ひととひとの調和。そして、ひとと自然の調和がまちの安らぎをえがきます。

Culture

こころをえがく

古代のピラミッド建築から、絵画や造形物において優れたバランスの象徴とされてきた△。文化・芸術の風が流れる邑久町では、人びとの心のバランスを豊かに育んでいます。

Traditional

ロマンをえがく

四方へ広がっていくような□の形は、世代を越えて受け継がれる伝統を表しています。その広がりには人びとのまちへの想い、そして邑久町のロマンをえがき続けます。

安らぎをえがく



自然につつまれると
ひとはまるくなれる

緑に抱かれていると、どうしてひとは安まるのでしょうか。
清々しい風景、おいしい空気、そして自然たちのささやき——
それらが私たちの体の中でこちよく響きあい
こころの角を、丸くしてくれるから。

町民の森



「町民の森」の面積は九・七ヘクタールで、遊歩道は千五百メートルもあり、バードウ、オッチングや湿生植物などの観察にも最適です。また、頂上には展望広場や休憩所があり、瀬戸内海をのぞむ三百六十度の眺望はまさに絶景。輝く緑とさわやかな風につつまれて、心もカラダも思いっきりリフレッシュできます。



自然教育の森
キャンプ場



美しい緑とさわやかな風、小川のせせらぎと山野草の可憐な花々たち。この自然教育の森キャンプ場では、誰もが大自然を身近に感じられ、あらためて四季の移ろいや動植物の息づかいに感動できるはずです。とくに、豊かな自然につつまれての家族のコミュニケーションは、子どもたちにとっても貴重な体験。みんなで、わいわい楽しく炊事やキャンプファイアーなどを楽しむのも、きっと忘れられない思い出となるでしょう。

また、キャンプ場全体では三十五のテントが張られ、一度に約二百人の方にご利用いただけます。もちろん、キャンプのための備品はログハウスの管理棟で貸し出し可能。木漏れ日のなか、鳥のさえずりに耳をかたむけつつ、リラックステた気分での遊歩道を歩いてみる。そんなゆとり時間を、ぜひご家族でお楽しみください。春から夏にかけては、アウトドアライフが思いっきり満喫できます。

N a t u r e

生まれたままの自然に出会えるまち、邑久町。
新緑の森を歩き、碧い海を望むと
体のすみずみまで、清らかな水が流れていくようです。



大平山野鳥の森

海と緑に囲まれた邑久町では、自然の中にとけ込み、自然とふれあいながらも体も潤してくれる環境がいくつもあります。大平山野鳥の森もそのひとつ。
十一ヘクタールの面積を持つ野鳥の森では、バードウォッチングを楽しみながら観察路を一周すると、あつという間に一時間たってしまうので、森林浴にもちょうどいい広さです。周辺には約二千五百本の桜の木が植えられていて、春になるとたくさんの人びとが花見に訪れます。また、ここからは瀬戸内海の素晴らしい眺望を満喫でき、晴天の日には淡路島や鳴門大橋を見ることができます。

ここでは野鳥との出会いを楽しみながら、自然の尊さを知ることができます。



吉井川



皇子の滝



伊木氏六代目忠興(享保年間)の代に、この滝で野点が行われ、この頃からその名が知られるようになりまし。川沿いには、約六百メートルにわたる遊歩道があり、雨降りの後には激しい水流を楽しむことができます。その景観は爽快です。

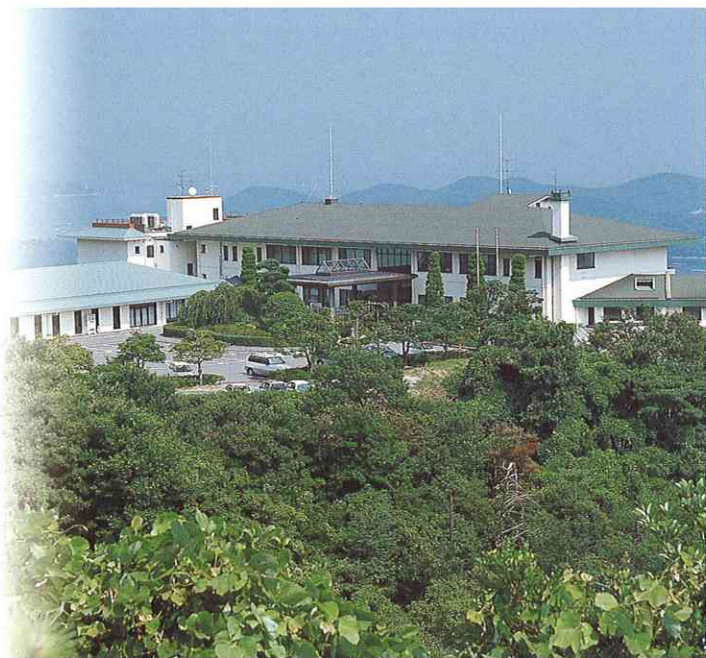
自然とのふれあいがさわやかな風を運ぶ

自分の手で、木や、水や、土にふれていると彼らの声が、体の中に伝わってくるような気持ちがある。励ますでもなく、そっと静かにささやきかけるその声は、私たちの心に、さわやかな風を届けてくれる。

古くから人びとの暮らしを潤してきた吉井川は、現在もオイカワ、カマツカ、カワナなどの魚類・貝類が棲む美しい川です。このかけがえない川とともに、いつまでも生きていけるよう、水質調査などの活動を継続し、町民一人ひとりの手で守っていきます。

岡山いこいの村

大平山の中腹に位置し、全客室から望む瀬戸内海の多島美と朝日は絶景です。家族・グループから企業の宿泊研修など多目的に利用でき、また屋外にはプールやテニスコートなどもあるので、心と体のリフレッシュにも最適です。春は花見、夏はバーベキュー、秋にはみかん狩り、冬は虫明名産のカキ料理と、四季を通してくつろげるリゾートランドです。



N a t u r e

「ひとと自然も生きている」。そんな当たり前のことをふと思い出し、喜びを感じてしまう。自然豊かな邑久町では、みんな地球の子どもです。



上寺山餘慶寺の桜

四季折々に優雅な景色を見ることが出来る餘慶寺。特に春の桜はたいへん美しく、多くの見物人が訪れます。中国三十三観音寺の二番札所にあたり、寺内の本堂、薬師堂、三重塔、梵鐘などには国・県指定の重要文化財があります。



提供 夢二郷土美術館

絵と詩にこめられた郷愁が、あざやかによみがえる。

竹久 夢二



夢二の生家

漂泊と叙情の画家、竹久夢二。彼はまさに『詩を絵で描く』作家でした。画人としてはあまりにも詩人であり、詩人としてはあまりにも画人であった。その特異な画風は、唯一無二の芸術として日本はもとより、世界中で高い評価を得ています。

明治十七年邑久郡本庄村に生まれた夢二は神戸、九州と移り住み、十九歳の春に上京し早稲田実業に入学。在学中にその才能を開花させ、二十四歳で連れ添った妻たまきをモデルに夢二式美人画が誕生、二十代後半には稀代の人気作家として名を馳せました。たまきとは二年で破局し、その後三十二歳の時に女子画学生だった笠井彦乃と京都で暮らし始めます。しかし、若くして亡くなった彦乃への想いから一時画作は後退しますが、傷心が癒えるとともに「長崎十二景」



●たけひさ ゆめじ (一八八四―一九三三)
邑久郡本庄村生まれ。コマ絵「筒井筒」の入選を機に早稲田実業中退、挿絵画家の道歩みだす。後に「春の巻」「宵待草」「女十題」など多数の名作を描き残す。

「黒船屋の女」などの名作を描き残し、東洋画の新境地を拓きました。また夢二は包み紙や千代紙などのデザインを手がけ、庶民とのコミュニケーションにも努めていました。

憧れだった欧米旅行で病を得た夢二は、帰国後、信州富士見高原療養所に入院。「ありがたう」の言葉を最後に、五十年の生涯を閉じました。

岡山人気質な反骨の気風と、情愛に溢れるヒューマニストであった竹久夢二。彼の作品には、失われた日本美の情趣と面影が生きており、その想いはいじみ込むように、私たちの心を潤します。



少年山荘

いいバランスが
いい文化を育てる



提供 夢二郷土美術館

文化

こころをえがく

形にするというのは、ひとの想いを表現すること。
希望、喜び、悲しみ、感動、夢——。
それらがさまざまな形となって表れたとき、
自分の中でえがかれた、想いの温かさを感じる。



光の写真家
みどりかわ よういち
緑川 洋一
(一九二五―二〇〇二)

大正四年三月四日、邑久町に生まれる。昭和十二年に岡山市で歯科医院を開業。昭和十四年ごろから本格的に写真をはじめ、昭和三十七年に「瀬戸内海」を出版。多重露光やフィルターなど、独自の技法を駆使し、戦後撮りためた緑川写真の集大成ともいえるべき記念碑的作品集となった。この作品で、日本写真批評家協会賞、日本写真協会作家賞など、数々の賞を受賞。「色彩の魔術師」として、広くその名を知られることとなった。その後、平成十三年、八十六歳で永眠するまでに、約八十冊の写真集・随筆集を発表、後進の指導に当たるなど精力的に活動してきた。邑久町名誉町民。



子どもたちの夢が あしたを創造する

子どもたちの未来は、一人ひとりが抱いている夢と心と心が通いあえる、まちの温かい環境がつくるもの。
まちに生まれた文化・スポーツが個性豊かな心と、未来を生きていく、健やかな体を育む。



身体をきたえることは
心を豊かにすること



喜之助フェスティバルの子供たちの作品発表会



喜之助フェスティバル開幕の鼓笛隊



豊安の呉服商に長男として生まれた竹田喜之助。たいへん勤勉な家庭に育ち、一中



喜之助記念室

(現・朝日高)から六高(現・岡山大)を経て、東京帝国大学(現・東京大)へと進みました。幼少の頃からとても賢く、好奇心旺盛な少年だったようです。
昭和二十五年、結城一座のちの竹田人形座)の人形劇に感激した喜之助は一座に入門。人形づくりから演劇にいたるその繊細美は、多くのファンを魅了してやみませんでした。
昭和五十四年に交通事故で亡く



代表作「雪ん子」

生命を吹きこまれた人形には
人と同じ心が生きている
竹田喜之助

なるまで、日本やヨーロッパ各国で公演し、約二千六百体の人形を創作しました。その制作図面や小刀などの遺品は、喜之助記念室に所蔵されています。また毎年夏に開催される喜之助フェスティバルでは、喜之助を慕い人形劇を愛する人びとが全国から集まり、その交流を深めています。

●ただ、きのすけ(一九三三〜一九七九)本名、岡本隆郎。大正十二年六月二十七日生まれ。昭和三十三年「雪ん子」文部省芸術祭優秀賞受賞。昭和四十七・五十一・五十二、ヨーロッパ各国で公演、好評を博す。



スポーツは、「いつでも・どこでも」だれでも「が楽しめる、もともと身近な文化活動といえます。また、体力や健康づくりはもちろん、人間性の回復や豊かな生活を営むためにも、不可欠な活動なのです。
邑久町では、そんなスポーツに親しめる機会づくりを強力にサポート。スポーツ公園を主要拠点として、野球、テニス、サッカー、さらにはカーヌーなどのさまざまな競技を支援しています。
また、スポーツを通しての地域間交流や親睦などを深めるために、スポーツ少年団を早くから結成。団員一人ひとりが「友情」「協力」「感謝」の目標を掲げ、少年団活動の活性化にも積極的に取り組んでいます。さらに、町民のみなさんに親しまれる恒例のスポーツとして、新春マラソン大会もすつかり定着しています。

伝統には形を有するものと、形の無いものとある。
 一見大きな違いがあるように思うが、
 それぞれの内に息づく「風」は、同じ想いを秘めている。
 その風は決してやむことなく、人びとの心に流れ続ける。
 私たちがこの土地に生まれ、生きていくかぎり。

色あせない伝統が 時を超えてひろがる



伝統

ロマンをえがく



下山田八幡宮秋祭り

下山田八幡宮の秋祭りは、毎年十月十日の朝の神事からはじまります。男たちのかけ声で神輿(みこし)が舞い、だんじりの子どもたちが、こぞつてしやぎりを奉納します。さわやかな秋風に吹かれて、いにしえの伝統が邑久のまちに蘇ります。

ふるさとの薫りは いつまでも変わらぬ



人形供養

まことの伝統行事のひとつである人形供養は、毎年三月の最終日曜日、本庄横尾山地蔵院で行われます。護摩が焚かれ、炎の中へ全国各地から寄せられた人形が次々と投げ込まれると、住職と共に大勢の参拝者も読経し、人形への感謝の気持ちと子どもたちの健やかな成長を願います。



権現まつり

春に天台宗大雄山大賀島寺で行われる、大智明権現をまつる伝統行事。権現堂内には江戸期に造られた金物飾りの少ない、黒塗りの六角神輿が据えられており、その奥のさらに奥には大智明権現の木像があります。大山地蔵である大智明権現は牛馬の守護神として広く崇められ、もとは二十四日が縁日で牛を連れて参る人が多かったそうです。祭りは、円張、豊安、仁生田などの竜頭線などにこしらえた豪華なだんじりが引かれ、しやぎりで囃しながらお旅所へ向かいます。また十六人以上の男たちが六角神輿を担ぎ、「チョイサ、チョイサ」とだんじりの後を練りながら、お旅所へと向かいます。





尻海だんじりまつり

江戸時代中期から続く尻海だんじりまつりは、毎年五月四日の早朝、だんじりに乗る子どもたちの神田大明神、松尾大明神への参拝から始まります。しゃぎりを奉納した後に、御幣をいただいて下山し、正午の出立を待ちます。
尻海には東町、市場町、西町と三だんじり三様のしゃぎりが受け継がれており、それぞれのまちから出立し尻海全地域を夜の十時まで囃して回ります。
この間は伊勢音頭や越後甚句がうたわれ、日向ひょうとこ面、鼻高面踊りがまつりに笑いと華をそえます。朝鮮使節と関係を持つといわれる囃しには、まさに港町の熱気そのものが感じられます。

まつりに宿る 人びとの熱きこころ



お衣洗い

観光名所の黒井山・等覚寺で毎年七月に催される、弘法大師のお衣を洗う伝統行事。観音経が唱えられる中、総代の手により衣が清水で洗われ、竹竿にかけられます。昔、泉で洗った弘法大師のお衣が黒く染まったことから、この地を黒衣と呼ぶようになったそうです。

語り継ぎたい 感動がある

受け継がれる自然や文化、伝統は、いつまでも大切にしていきたいもの。そしてその中に息づく活気、温もり、薫り——
邑久だからこそ生まれたひとつひとつの「ふるさと」を伝えたい。



花まつり

桜満開の四月に、上寺山の餘慶寺の本堂で行われる花まつりは、お釈迦様の誕生を祝って甘茶を注ぎ、無病息災を祈願します。天台宗・備前四十八ヶ寺のひとつである餘慶寺の本堂は、国指定の重要な文化財です。



太刀踊り

その昔、尻海のしけを鎮めるために、棒を太刀に見立てた四人の少女が村人たちの歌にあわせ、神前で太刀踊りを奉納したと伝えられています。千数百年を経た現在も大土井の正八幡宮では秋の大祭に、太刀踊り、神輿の巡幸、祭祀舞などが奉納されます。

まちの現在をえがく

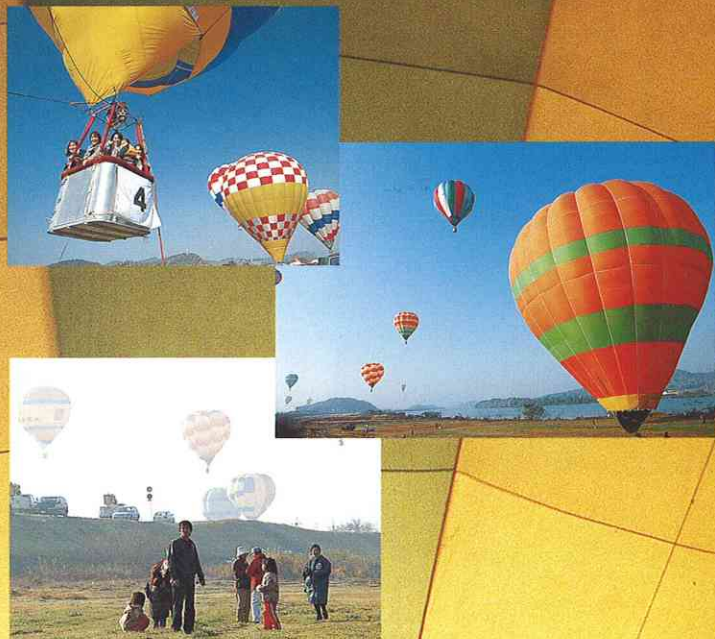
子どもの頃は、大好きなモノや将来の夢をよく絵にかいたもの。
真っ白な紙の中には、自分だけの愉快な世界が広がっていたけれど、
そこに友だちの絵が飛び込んでくると、その楽しさはさらにぐくらんだ！。
一人ひとりがえがく夢や希望はそれぞれだけど、
みんなの想いをひとつにすると、そこにはきっと大きな力が生まれる。

make a picture
of
OKU

邑久の空を華やかに彩る、 バルーンイリュージョン。

今から二百年以上も前に、人類は初めて空を飛びました。フランスのモンゴル・フィエ兄弟によって発明された、熱気球に乗って――。

そして現在。邑久町の千町平野に秋の終わりが近づくと、バルーンミーティングの季節が訪れます。岡山県内をはじめ全国各地からバルーンチームを招いて開催するこの大会は、競技フライトはもちろん競技を離れての交流も大きな目的であり、何より子どもたちの夢を育て人ひとりに感動を与える大会でもあります。さらに、バルーンイリュージョンでは熱気球が夜空を彩り、幻想的な世界をえがき出します。



みんなの鼓動が ひとつになる

まちには働くひと、余暇を楽しむひと、勉強するひと...
いろいろなひとが、それぞれに生きている。
みんなが持っている「生きる力」をひとつにすると、
まちは活気と笑顔、そして喜びにつまれました。



岡山県邑久育ちの
丸まるに太った力キたちが
みんなの食をそぞる
かきまつり



全国三位の収穫量を誇る岡山
県の力キ養殖収穫量。その約半数
を邑久町が占めています。このか
きまつりでは、日ごろあまり手に
入らない殻付き力キ販売や力キ
料理の試食などがあり、たくさん
の人出で賑わいます。

青い空と太陽の下
それぞれの夢を乗せて
自由に飛び立つ

ラジコンフライトショー



毎年五月の終わりに錦海塩田
跡で開催されるラジコンフライト
ショー。ラジコン飛行機や実機デ
モフライトなどの多彩なショーで
ROファンをわかせます。

瀬戸内海の潮風と
にぎやかな熱気が
ふるさとに響きあふ

邑久町港まつり



八月をむかえた虫明漁港周辺
では、「邑久町港まつり」が行われ
ます。青空市、盆踊り、花火と、町
民がひとつになり大いに盛り上が
ります。

海洋スポーツを通して
邑久の海や自然の大切さを
親子で見つめなおす

カヌーの練習



邑久町の海や自然が与えてく
れるものを子どもに知ってもらい、
さらに親子の交流を深めてもら
おうと誕生した海洋クラブ。カヌ
ーやヨットの練習を楽しみながら、
同時に「ルールを守る」というこ
とも学んでいきます。

町民に息づく
温かい心と丈夫な体を育み
「生きる」ことを学ぶ

FOS少年団



友情(Friendship)・秩序(O
rder)・奉仕(Service)を基調
に昭和三十九年発足。以来、募金
や町内清掃、キャンプなどを中心
に活動し、近年ではその活動が評
価され「山陽新聞桃太郎賞」等を
受賞しています。



森林浴の森
峨城山創造の森
 林内歩道を散策しながら、植物・野鳥観察を楽しめる峨城山創造の森は、森林浴の森、冒険の森、憩いの森など6つの森からなり、春には桜も楽しめます。



竪穴式住居(復元)
門田貝塚史跡公園
 弥生時代前期から鎌倉時代に及ぶ貴重な集落遺跡です。ここは実際に遺跡から採取した貝殻を使った貝塚や、竪穴式住居が復元されている野外ミュージアムです。



潮風と緑の息吹がカラダにみちていく

瀬戸内の海と、豊かな自然に抱かれたまちを歩く。時間と共に散歩している自分に、ふと気づきます。春、夏、秋、冬...、いつ誰が訪れても潮風と緑の息吹が、快く迎えてくれるんですよ。



ふるさと市
「道の駅」一本松展望園
 ここから望む瀬戸内海の多島美は、岡山ブルーライン随一の景観。ピオーネ、イチゴ狩りや、物産直売所、鉄道公園など大人から子どもまで楽しめる展望園です。



魚売り場
「道の駅」黒井山グリーンパーク
 春は「桜の園」のしだれ桜、夏は百日紅などの美しい花が楽しめる自然たっぷりの公園。また物産直売所は、新鮮な魚介類や野菜などの販売でにぎわっています。



虫明焼
 江戸中期に、岡山藩筆頭家老伊木家のお庭窯として焼かせたのが始まり。清水焼の流れをくむ施釉陶器で、その作風は繊細で優美な女性的風情が特徴です。



砥石城跡
 備前国の守護代・浦上氏に仕えた宇喜多能家の居城跡。室町時代中期の石垣や、出城(二の丸)などが残っています。



餘慶寺 木造薬師如来坐像
 像高182.7cm、檜材一木造、漆箔。肉取りは平面的、膝前は衣文構成で、平安時代後期の初頭に製作されたと考えられる。国指定重要文化財。



邑久町立郷土資料館
 館内4つの資料室には、まちの貴重な文化遺産が数多く保存されており、まちの歴史のほかアミノ酸研究の権威・古武弥四郎の軌跡などをたどることができます。



静円寺
 県の重要文化財に指定されている静円寺。竹久夢二ゆかりの寺としても知られ、参道からは見渡す限りの千町平野が開けており、ハイキングの拠点としても最適です。



赤穂線
 JR赤穂線は町内に2つの駅があります。町の玄関口として多くの観光客を迎え、また通勤通学などの交通手段として町民からも親しまれています。



岡山ブルーライン
 沿道には竹久夢二の生家、一本松展望園(道の駅)など様々な観光名所があり、中でも高さ30m、長さ520mの片上大橋から望む片上湾はまさに爽快の一言です。



通信機器向け電子部品製造工場



漁業に従事する人々

新しい産業が 活力をつなぐ

新しい産業が生まれるとき、
そのエネルギーは、まち全体に広がっていきます。
ひとつひとつの産業が、まちの活力を育みます。

自然の恵みが まちをうるおす

豊かな自然にかこまれた邑久町は
人びとが海・土・山とともに生きるまちです。
それぞれの恵みが「まち」、そして「ひと」を潤します。



にぎわいと交流の拠点となるタウンセンターの活性化をめざし、手作り特産品などの工房型店舗や、高齢者・女性向けのサービスが充実した店づくりなどを進め、消費者の多様なニーズに応える商業振興を図ります。併せて道路や街路灯など魅力的な街並み景観づくりについても、積極的に進めていきます。

また、工業振興において、企業誘致の推進、新地域産業の育成、雇用の創出、を柱にまちの活性化を促進します。インターネットなどによる積極的な情報発信を進め、遊休工場用地の活用、U・J・イターン促進などに努めます。さらにかき、ブドウなどを活かした特産品や加工品の開発にも力を入れていきます。

商業・工業



カキ



田園風景



ピオーネ

まちの漁業はカキ養殖を中心として、順調に成長してきましたが、漁場の悪化、後継者不足など水産業を取り巻く環境は厳しいのも実状です。そこで家庭雑排水の浄化対策、虫明湾内の海底清掃など良好な漁場環境の保全に努め、またイベント、生鮮水産物直売所などの観光漁業、加工品の販売など漁業生産・販売の振興、さらに漁村環境の整備なども促進していきます。

農業においては、米、野菜、ピオーネなどを中心に、生産・維持・増進に努めています。また農道、農業用水などの生産基盤や自然と調和した農村環境の整備、さらに意欲のある認定農業者、新規就農者の育成・確保の振興を図ります。

漁業・農業

Industry



町民清掃活動の様子



ハンセン病療養所を小学生訪問(邑久光明園)

一人ひとりの行動が まちの安全や環境を守る

どれだけ自然が豊かなまちでも、
ほおっておくと、その美しさはかれていきます。
まちは一人ひとりの心を映し出す、鏡でもあります。



おかやまアダプト推進事業

都市化や自動車交通量の増加による
大気汚染、河川や海の水質汚濁など、地
球規模の環境問題がさげはれて久しい現在、
本町でも住民が健康で快適な生活を確
保できるように、公害の未然防止や発生源
対策を進めるとともに、「環境フェスタ」を
開催することで、つねに住民の環境保全へ
の意識向上を図っています。
具体的な対策としては、まず消費生活
の見直し、生活様式の改善、地球環境問
題への理解などを含めた啓発活動やボラ
ンティア活動の浸透を進めています。また
企業の公害未然防止の責任を明確にし、
工場など環境汚染の発生が予想される施
設に対しては、公害防止施設の導入を促
進するとともに、立ち入り検査を行い、監視・
指導を強化します。

環境保全

Protection of
the Environment

かけがえのない人生が まち中で輝いている

男性、女性、子ども、高齢者、障害者、外国人…。
まちに暮らす人びとはさまざまですが、
大切なのは、みんな同じ「住民」ということ。



邑久町ひまわり作業所

同和問題をはじめ女性や子ども、高齢者、
障害者、患者、在日外国人などへの偏見や
差別のない、お互いの人権を尊重しあえる
まちづくりのために、住民一人ひとりが自
分の問題として取り組んでいます。
たとえば、お互いを対等なパートナーと
して認め合うための「男女共同参画基本
計画」の記念講演を実施。また、四カ国語
で書かれた「生活安全マニュアル」を作成し、
来日外国人にも住みよいまちづくりをす
めています。
さらには、人権問題についての学習機会
の充実を図るため、広報やパンフレットの作成、
人権啓発講座の開講と内容の改善・工夫
に努めています。

人権

Human Rights



一人ひとりの学びが 豊かな気風を育む

ひとは幼い頃から学習し、
社会に出てからも、いろいろなことを学びつづけます。
こうしたひとの成長が、まちを豊かに育むのです。

思いやりの心が やさしく響きあう

何気ない手助け、支えあいができるのは、
心に豊かさと、温かさを持っているから。
やさしさが広がると、まちは幸せに満ちていきます。

また、**教育** としては、幼児期に、基礎的な生活習慣を身につけられるよう一カ年の就学前教育を行っています。そして小・中学校では、ネイティブの英語指導助手による英語教育の充実をはじめ、完全週休二日制に伴う余暇を活かした「生きる力」の育成にも努めています。

また、**福祉** 赤ちゃんからお年寄りまで、すべての住民が豊かな人間関係のもとで安心して暮らせるよう、地域の人がお互いに身近な助け合いができる、地域に根ざした福祉ネットワークづくりに努めています。

教育



文化講座



パソコン講習



移動健診



具体的には、社会福祉協議会を中心に、福祉委員、地区コミュニティ協議会などが連携し、小地域福祉活動、コミュニティ活動、ボランティア活動、世代間交流などの促進を図っています。また保健・医療・福祉施設の集積した「おく福祉村」の整備や、公共施設、道路、公園、住宅などのバリアフリー化を促進し、みんながいつでもどこでも快適に生活できるユニバーサルデザインのまちづくりも併せて推進します。

福祉

Education

Weelfare

郷土偉人伝

「偉人」とは、いかなる人を指すのか。歴史に輝かしく名を残す人物か。頭脳明晰、博学多識を誇る文化人、あるいは一代で財を成した経済人か。真の偉人とは、国を、文化を、人を、そして故郷を心から愛し支えた人びとのこと。ここに邑久に生まれた偉大なる先人たちの優れた業績と、その想いにふれる。

江戸後期の三茶人

伊木忠澄
いぎ ただすみ
(一八八〇～一八八六)



文政元年八月二十三日、岡山藩家老・士倉氏の三男として生まれた忠澄。十六歳のとき、伊木家の養子となつて第十四代(石高三万三千石)を継承。藩主の信望も厚かつたといわれます。隠居名を三猿斎といひ、茶の湯の道にも精通していたことから江戸後期の三茶人とも呼ばれました。晩年は伊木家の庭審的要素の強かつた虫明焼の創始期にも貢献。明治十九年三月二十三日、六十九歳で逝去。

村の未来を拓いた生涯

戸根(刃根)
とね しんいちろう

新一郎
(一八七三～一九四三)



明治六年一月三日、尻海奥谷生まれ。三十一歳の若さで玉津村長を六年間務め、農業、漁業における近代化を成功させ、村に新たな希望を与えました。教育への情熱も熱く、子どもたちの教育機会を広げるため玉津小学校に高等科を付設するなど、村のために奔走しました。晩年は抹茶と夢二の画を愛し、七十歳で亡くなった時には、千七百人を超える村民が別れを惜しんだそうです。

強い心と救いの手をもつ人

今田虎次郎
いまだ とらじろう
(一八五九～一九四〇)



安政六年九月十五日、下山田に生まれた今田虎次郎。勤勉で責任感が強く、優しい人柄で知られ、大阪會根崎と難波の警察署長を歴任後、明治四十二年に大阪の外島保養院初代院長に就任。秩序と教養深い療養所を目指し、二十年近くにわたり尽力しました。昭和十三年には、台風により壊滅した外島保養院に代わる光明園(現在の国立療養所邑久光明園)を長島に新設しました。享年八十二歳。

不撓不屈のアミノ酸研究者

古武弥四郎
こたけ やしろう
(一八七九～一九六八)



古武弥四郎は明治十三年七月、本庄尾ノ村に生まれました。非常に向学心と意志の強い少年で、中学生の頃は自宅から学校までの往復四十キロメートルを草履履きで二年間通学したほどです。その後大阪医学校、京都大学を経てドイツのケーニヒスベルグ大学でアミノ酸研究に取り組み始めます。帰国後もさらに努力を重ね、世界的に重要かつ多大な功績を残しました。享年八十九歳。

近代詩歌のバイオニア

正富汪洋
まさとみ おうよう
(一八八一～一九六七)



明治十四年四月十五日、本庄佐井田に生まれた汪洋。本名は由太郎。近所の夢二とは幼友達でした。二十二歳で哲学館(現東洋大学)に入学。国文学・詩歌に親しみその才能を発揮しました。後に若山牧水、三木露風らとともに「車前草社」を結成し短歌の新たな道を切り拓きます。汪洋は生涯に詩歌集「小鼓」「明治の青春」「浅みどり空」など二万を超える詩歌を残し、数々の賞を受賞しました。

書の道を全うした大家

大原桂南
おおはら けいなん
(一八八〇～一九六二)



大原家の次男として明治十三年十一月九日下笠加に生まれた桂南。岡山師範学校在学中、難波香城に書を学び、さらに磯山天香、加納星南に師事しました。卒業後は邑久高等小学校などの講師を歴任し生涯を書道教育に捧げ、一人を超越する門下生の指導に当たりました。彼の格調ある独特の書風は全国的にも高く評価され、山陽新聞の題字揮毫は有名なところ。昭和三十六年、八十二歳で逝去。

ひとを愛した歌人

松原三穂子
まつばら みほこ
(一七九三～一八六五)



寛政五年、備前の御津郡今村(現在の岡山市今村)に生まれた松原三穂子は、幼い頃から書道や和歌に秀でていた女性でした。夫と死別後、和歌の道を通して知り合った松原東省と結ばれ、邑久郡豆田村に嫁ぎました。その後も夫の協力を得て和歌の道を歩み続け、彼女の歌は研ぎ澄まされていきました。生涯にわたり和歌を愛し続けた美穂子は、慶応元年六月七日、七十三歳で他界しました。

邑久の礎を築いた人物

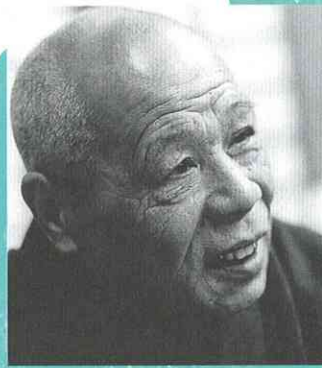
永山茂樹
ながやま しげき
(一八三九～一九〇〇)



永山茂樹は天保十年六月二十日、永山家の長男として向山に生まれました。県の事務職に就いていた茂樹は退官後、野道の改修、土橋から石橋への架け替え、木造の樋門から石造への改修、灌漑など、六十二歳でその生涯を閉じるまで様々な公益事業に尽力し、村の産業開発における貢献は多大なものでした。また、茂樹の長男、甚太郎や三男、長三も、邑久のために活躍した人物でありました。

面浄瑠璃の功労者

太田稔
おた みのる
(一九〇二～一九九〇)



明治三十五年十二月八日、豊原円張に生まれた太田稔は少年時代、小川勇平の教えにより面浄瑠璃を習得しました。独立後は鍛冶屋を経営しながら、面芝居の発展、維持に努めました。面、衣裳作りから演出にいたるすべてを自作し、地元はもとより大阪、東京方面にまで出かけてその至芸を披露し、「邑久」の面浄瑠璃を完成させました。昭和四十七年、面浄瑠璃の技能保持者として県の重要無形民俗文化財に指定、さらに町長表彰。享年八十九歳。

面浄瑠璃は面芸とも呼ばれ、一人の役者が横幕の陰にかくれ、転がりながら面と衣裳を着替えるという早替わりが見物の仮面劇で、百数十年にわたって受け継がれた歴史深き郷土芸能です。

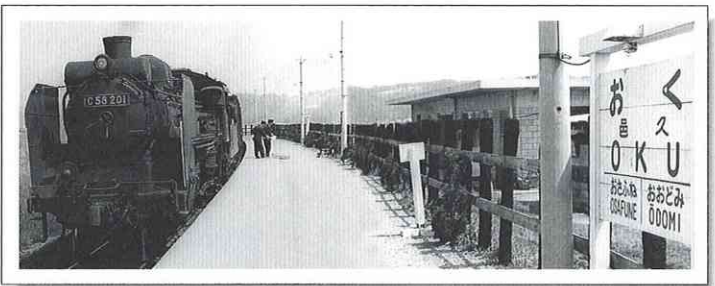
新たな歩みを支える五十年

町制五十周年をむかえる邑久町。
喜び、悲しみ、驚き、出逢い……
さまざまな想いと出来事が交錯した五十年。
こうしてまちを育み続けた先人たちの意志が
私たちの歩みを支えています。

- 昭和二十七年**
四月 六村(邑久、福田、今城、豊原、本庄、笠加)合併。町制をしく(初代町長 奥田 真須二)
邑久町役場庁舎竣工
九月 邑久町立病院開院(山田庄)
- 昭和二十八年**
二月 長沼部落の一部が邑久町から西大寺へ分離
上寺山に養老院を開設
- 昭和二十九年**
一月 玉津村を編入
三月 邑久保育園竣工
五月 町村合併の功労団体として総理大臣より表彰(全国初)
- 昭和三十年**
五月 福田保育園竣工
十一月 古武弥四郎氏、名誉町民に
- 昭和三十一年**
六月 福山区吉井川堤防完成
十二月 岡山市外三町衛生施設組合設立
- 昭和四十二年**
四月 尻海宅地造成竣工
- 昭和四十三年**
三月 裳掛児童館竣工
- 昭和四十四年**
四月 邑久、福田、豊原、明徳、淳風小学校を統合、新邑久小学校発足
六月 県道箕輪尾張線道路改良事業(駅前付近)完成
八月 (株)旭大理石工作所誘致
十月 (株)フオークナー誘致
十二月 アルファエレクトロ工業(株)誘致
- 昭和四十六年**
三月 第一次邑久町振興計画策定
統合邑久小学校竣工
学校給食共同調理場竣工
- 昭和四十七年**
四月 邑久町農業共済組合、事業を町に移譲
六月 島山製菓(株)誘致
八月 農業振興地域指定
- 昭和四十八年**
一月 邑久町立病院改築
九月 多田電機(株)誘致
十月 町制施行二十周年記念式典
- 昭和四十九年**
四月 虫明漁港修築事業着手
五月 田島応用化工(株)誘致決定
田島ルーフィング(株)誘致決定
十月 大同機工(株)誘致決定



昭和27年 町立病院開設



昭和37年 赤穂線全線開通



昭和40年 邑上橋開通



昭和48年 国営吉井川土地改良事業



昭和51年 台風17号による集中豪雨



昭和52年 岡山ブルーハイウェイ開通

昭和54年 岡山勤労者いこいの村落成



- 一月 綿海塩業組合塩田干拓起工(昭和三十四年完成)
- 昭和三十三年**
四月 裳掛村を編入
七月 光田健輔氏、名誉町民に
- 昭和三十四年**
三月 綿海塩業(株)誘致
- 昭和三十五年**
三月 新町建設計画策定
- 昭和三十六年**
四月 上水道通水
十一月 合併十周年記念事業として奥津町に分取造林事業実施
- 昭和三十七年**
四月 町制施行十周年記念式典
九月 赤穂線全線開通
- 昭和三十八年**
三月 奥田真須二氏、名誉町民に
四月 農業構造改善事業着手

- 十二月 国営吉井川土地改良事業町内着工
- 昭和四十九年**
一月 第二次邑久町振興計画策定
四月 邑久消防組合設立
- 昭和五十年**
九月 国土調査開始(10ヶ年計画)
- 昭和五十一年**
三月 第三次邑久町振興計画策定
四月 第二次農業構造改善事業着手
五月 玉津コミュニティセンター竣工
九月 台風十七号による集中豪雨
十月 町道大平線道路改良事業着手
十二月 河川激甚災害対策特別緊急事業認可、千田川改修工事着手
- 昭和五十二年**
七月 岡山ブルーハイウェイ開通
- 昭和五十三年**
三月 上寺山染々園竣工(改築)
十月 津村順天堂(株)誘致決定
嘉数郁衛氏、名誉町民に
- 昭和五十四年**
四月 地域農政特別対策事業着手
今城保育所竣工
岡山勤労者いこいの村完成
- 昭和五十五年**
三月 第四次邑久町振興計画策定
統合(邑久・裳掛)邑久中学校竣工
玉津保育所竣工
- 昭和五十六年**
三月 邑久幼稚園竣工
四月 虫明漁港関連道路開通
六月 激特事業・福中ポンプ場完成
- 昭和五十七年**
三月 裳掛コミュニティセンター竣工
四月 老人憩いの家竣工



あなたとやさしい邑(まち)づくりへ

「歴史つなげよう 未来ひろげよう」をキャッチフレーズに町制施行50周年を祝う記念行事が町内外で繰り広げられています。

顧みますと昭和27年4月、時代の要請と先輩たちの並々ならぬ努力、住民のみなさんの協力によって、わが町邑久町が誕生しました。以来50年、赤穂線の開通やブルーラインの開設、平野部の圃場整備、丘陵部の灌漑施設の整備、企業の誘致、また教育・スポーツ施設、福祉施設の充実、上水道やごみ焼却場の整備、それらに伴う先進的な諸施策への取り組みが行われ、純農漁村から都市近郊の田園都市として、また県内でも有数の食料供給地域として発展を遂げてまいりました。

さて、50周年を節目として新しい町づくりや邑久郡三町の合併について論議が高まっています。時代の変革期には「歴史を学び」「未来を考える」ことが正しい選択をする上で重要です。こうした時、50年を祝つてこの小冊子が発刊されますことは非常にタイムリーであり、人と自然が共生する「健康文化都市」の実現をめざし21世紀の町の発展と福祉向上に役立てば幸いです。

邑久町長
多田 清二



議会風景

安心の行政サービスで 快適な未来をひらく

「みんなが明るく、快適に暮らしていける」
まちに暮らす人びとの願いは、いつの時代も同じです。
すべての想いをひとつにし、まちの未来を形づくります。



邑久町庁舎

町民に選ばれた議員十六名から構成される邑久町議会。年間を通して四回の定例会が開かれ、急施を要する場合には臨時会が開かれます。常任委員会の活動としては、議案、請願・陳情等付託案件の審査、及び行政先進地視察などがあります。閉会中は他町村からの視察来訪者への応対懇談から町内会への出席など、多くの行政情報や町内の生活状況を的確に把握するために、幅広い活動を行っています。また行政機関においては、多様な住民ニーズに対応できるよう、新たな行政改革を行い、さらに効果的かつ効率的な行政運営と住民サービスの向上をめざし、まちの活性化に努めます。

アクセス

●鉄道でのアクセス



●お車でのアクセス



沿革

昭和27年4月1日、邑久・福田・今城・豊原・本庄・笠加村が合併し邑久町として町制を施行。昭和29年1月1日に玉津村を、昭和33年4月1日に裳掛村を合併し、現在の町の規模となる。

町名の由来

邑久郡は古くは「大伯(おほく)」と呼ばれ、「国造本記」には「大伯国造」と記されている。また、藤原宮跡出土の木簡に、「大伯評」「大伯郡」と表記されている。「大伯」から「邑久」へ変わったのは「続日本記」からで、和銅6年(713)に国郡郷名が「好字」で表記されたことによる。



町木/ウバメガシ



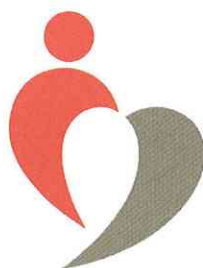
町花/月見草

町民憲章

(昭和57年8月制定)

わたしたちは瀬戸内の風光、吉井川の清流、千町の沃野など豊かな自然と長い伝統に培われてきた邑久町の住民です。このふるさとに誇りを持ち、町民互いに協力し、平和で豊かなまちづくりを進めるため、この憲章を定め、その実現に努力します。

- 一、自然を愛し、環境を整え美しい町をつくりましよう。
- 一、秩序を守り、協力して明るい町をつくりましよう。
- 一、勤労を重んじ、生産を高め活気のある町をつくりましよう。
- 一、人権を尊び、生きがいと安らぎがある町をつくりましよう。
- 一、歴史と伝統をたいせつにし、文化のかおり高い町をつくりましよう。



おくちょう

邑久をえがく

町制施行50周年記念
邑久町勢要覧